

My Sonic Signature Gold の活用(12) —アナログと他メディアの比較試聴(12) —

1. はじめに

前報(11)に引き続き、今回はハイドンのオラトリオ四季を聴いていきます。

2. My Sonic Signature Gold の試聴結果

前報(1)に述べた方法で試聴していきます。

【アナログ盤】

EMI EAA 90037-9

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィルハーモニー管弦楽団

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ《四季》

グンドラ・ヤノヴィッツ (ソプラノ), ウェルナー・ホルヴェーク (テノール),
ワルター・ベリー (バス), ベルリンドイツオペラ合唱団,

【BPODCH】

2009年9月9日

サー・サイモン・ラトル指揮ベルリンフィルハーモニー管弦楽団

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ《四季》

クリスティアーネ・エルツェ (ソプラノ), ジョン・マーク・エインズリー (テノール),
トーマス・クヴァストホフ (話者), ベルリン放送合唱団, サイモン・ハルシー (合唱指揮)



3. My Sonic Signature Gold の試聴結果

カラヤンのアナログ盤は、カラヤンらしい耽美的な描写と盛り上げがあって、聴きごたえがあります。ソリストはオケの後方に位置しており、そういった位置関係もしっ

かり把握できる録音です。ソリストも実力を発揮しており、合唱陣もオペラの合唱を務めるグループですので、手慣れた感じがします。

ラトル指揮ベルリンフィルの **BPODCH** は、収録が古いので、それほど音質は良くありませんが、ラトルの潑瀨とした指揮ぶりとソリストが実力派揃いで、軽快で生き生きとした明るく楽しいハイドンです。

4. まとめ

カラヤンのアナログ盤、ラトルの **BPODCH** とも聴きごたえのあるものです。

以上